

2009 年度大齋節 荒野の40日の黙想

大齋節にマタイによる福音書第4章1～11節から「主イエスの荒野の40日」の黙想をしてみましょう。5回に分けて行うようになっています。大齋節第1主日の週から第5主日の週まで各1回を当てることもできますし、2月28日から4月9日まで5回にかけて行われる「京都伝道区教会巡り」に合わせて用いることもできます。

各回の聖書箇所から、沈黙のうちに、その場面とそこでのイエスの姿を思い浮かべて、それに近づきましょう。イエスの受けた誘惑・試練を思い巡らしましょう。そして自分はどうかを省みてみましょう。またこの社会、世界についても思い巡らしてみましょう。そうした思い巡らし（黙想）から促される祈りは何でしょうか。末尾に記した詩編の祈りも用いてください。

第1回 荒れ野

「さて、イエスは悪魔から誘惑を受けるため、“霊”に導かれて荒れ野に行かれた。そして四十日間、昼も夜も断食した後、空腹を覚えられた。」マタイ4:1-2

イエスはその働きを開始する前にひとり荒野に行かれた。祈ってそれに備えるためである。

イエスは断食して弱り果てる。まったくの孤独。待ち受けるのは悪魔である。悪魔の声のほか聞こえるものはない。

- ① イエスを見つめ（思い巡らす）
- ② 自分を見つめる（思い巡らす）
- ③ 思い巡らしから与えられたことを祈る

祈り・詩編116:3-4

「死の綱がわたしにからみつき
陰府の脅威にさらされ
苦しみと嘆きを前にして
主の御名をわたしは呼ぶ。
『どうか主よ、わたしの魂をお救いください。』」

第2回 パンか神の言葉か、どちらが第一か？

「すると、誘惑する者が来て、イエスに言った。『神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。』」

イエスはお答えになった。『“人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる”と書いてある。』」マタイ4:3-4

イエスが神から託された使命を行えないようにし、その道を妨げるのが悪魔の目的である。生存・生活の不安、危機の中に、あるいは繁栄の中に悪魔は忍び寄る。生活を優先させ、神の言葉を聞いて従うことをくつがえそうとする。これが第一の誘惑である。

このとき、イエスは神の言葉によって生きる自分の道を揺さぶられ、かえって飢え死にを覚悟して「神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」ことを選ばれた。イエスは第一の誘惑を拒絶された。

「あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。」マタイ 6:32-33

神の言葉を聞いて、それを食べて生きていくこと。それが私たちに命を得させる。

- ① イエスを見つめる（思い巡らす）
- ② 自分を見つめる（思い巡らす）
- ③ 思い巡らしから与えられたことを祈る

祈り・詩編 145:14-16

「主は倒れようとする人をひとりひとり支え
うずくまっている人を起こしてくださいます。
ものみながあなたに目を注いで待ち望むと
あなたはときに応じて食べ物をくださいます。
すべて命あるものに向かって御手を開き
望みを満足させてくださいます。」

第3回 自分の栄光か神の栄光か、どちらが第一か？

「次に、悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて、言った。『神の子なら、飛び降りたらどうだ。“神があなたのために天使たちに命じると、あなたの足が石に打ち当たることのないように、天使たちは手であなたを支える”』と書いてある。』

イエスは、『“あなたの神である主を試してはならない”』とも書いてある』と言われた。」マタイ 4:5-7
神殿の屋根から飛び降りることは、多くの人々の前に英雄として登場することである。力を握ってそれを行使し、人々の賞賛を得る。

自分の名を高め、自分の栄光を求めることは、第二の誘惑である。イエスはこれを退けられた。

- ① イエスを見つめる（思い巡らす）

② 自分を見つめる（思い巡らす）

③ 思い巡らしから与えられたことを祈る

祈り・詩編 115 : 1

「わたしたちではなく、主よ
わたしたちではなく
あなたの御名こそ、栄え輝きますように
あなたの慈しみとまことによって。」

第4回 悪魔の支配か、神の支配か？

「更に、悪魔はイエスを非常に高い山に連れて行き、世のすべての国々とその繁栄ぶりを見せて、『もし、ひれ伏してわたしを拝むなら、これをみんな与えよう』と言った。

すると、イエスは言われた。『退け、サタン。“あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ”と書いてある。』」 マタイ 4 : 8 - 10

悪魔はついに本性を現し、神に代わってこの世界の主権者、支配者となり、イエスをも支配しようとする。この世の富、地位、力、権威を得るために魂を売り渡すこと。これが第三の誘惑である。イエスはこれを拒否された。

私たちの心、関心、生活の中心になっているものは何か？ 漠然と神が私たちと共におられるというだけではなく、神がわたしの心と生活の中心でいてくださることが、私たちの救いである。

① イエスを見つめる（思い巡らす）

② 自分を見つめる（思い巡らす）

③ 思い巡らしから与えられたことを祈る

祈り・詩編 145 : 10 - 13

「主よ、造られたものがすべて、あなたに感謝し
あなたの慈しみに生きる人があなたをたたえ
あなたの主権の栄光を告げ
力強い御業について語りますように。
その力強い御業と栄光を
主権の輝きを、人の子らに示しますように。」

あなたの主権はとしえの主権
あなたの統治は代々に。」

第5回 天使たちの到来

「そこで、悪魔は離れ去った。すると、天使たちが来てイエスに仕えた。」 マタイ 4 : 11

イエスが三つの誘惑を退けたとき、それはすべて「聖書にこう書いてある」ということがその根拠、力であった。事実イエスは「神の口から出る一つ一つの言葉で生き」、聖書の言葉がイエスの心と体と信仰と、その道を守ったのである。

人の魂と世界を支配しようとする悪魔の企ては砕け、神が統治される世界が広がる。

悪魔はイエスの道を阻止し、ゆがめようとして、かえってその逆の結果となり、イエスはご自分の道を確立された。私たちが試練に遭うとき、試練に遭われた主イエスが共にいてくださり、私たちを守り、それに打ち勝たせてくださる。こうして私たちは試練にさらされる前よりはるかに神に近づけられ、神と共に歩むようになる。

荒野においては悪魔の声しか聞こえなかったが、しかし実は神の霊がそこにイエスを導いていたのである（マタイ 4 : 1）。神は悪魔よりも強く賢く、その御手は悪魔よりも大きく強い。

- ① イエスを見つめる（思い巡らす）
- ② 自分を見つめる（思い巡らす）
- ③ 思い巡らしから与えられたことを祈る

祈り・詩編 103 : 19 - 22

「主は天に御座を固く据え
主権をもってすべてを統治される。
御使いたちよ、主をたたえよ
主の語られる声を聞き、御言葉を成し遂げるものよ、力ある勇士たちよ。
主の万軍よ、主をたたえよ
御もとに仕え、御旨を果たすものよ。
主に造られたものはすべて、主をたたえよ
主の統治されるところの、どこにあっても。
わたしの魂よ、主をたたえよ。」

（京都聖三一教会牧師・京都聖ステパノ教会管理牧師 司祭 ヨハネ 井田 泉）